



○小本川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、県、町、住民や民間企業等が一体となって、以下により「流域治水」を推進する。

【短期】河道掘削や築堤、流木捕捉工整備等の河川改修や、砂防堰堤、治山施設、道路の嵩上げの整備を集中的に実施。

また、災害危険区域の指定による土地利用規制の実施。

ソフト対策では、要配慮者利用施設の避難確保計画の策定や避難訓練を促進するほか、民間企業と災害協定を締結し要配慮者の避難支援体制の強化を図る。また、地区自主防災協議会との連携と防災士等地域リーダーの育成に努め、洪水・土砂災害ハザードマップの作成・周知や水位周知河川の指定・運用に加え、ホットライン、タイムラインの活用による防災体制の強化を図る。

【中長期】河川改修後の河道状況を把握し堆積土砂除去を行うなど、各施設において適切な維持管理を実施。

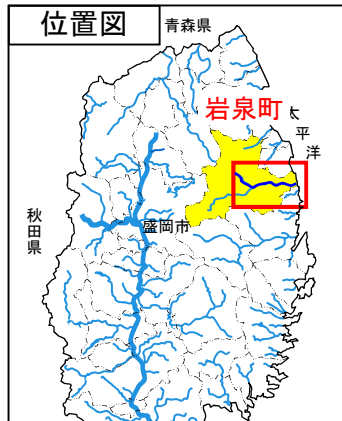
ソフト対策では毎年フォローアップを実施し、防災体制の改善・強化に繋げていく。

【凡例】

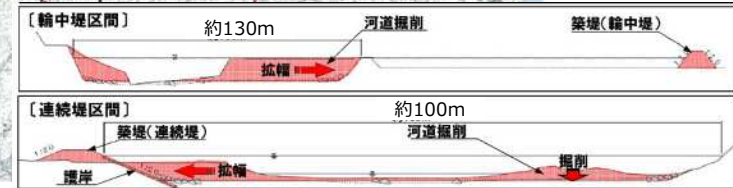
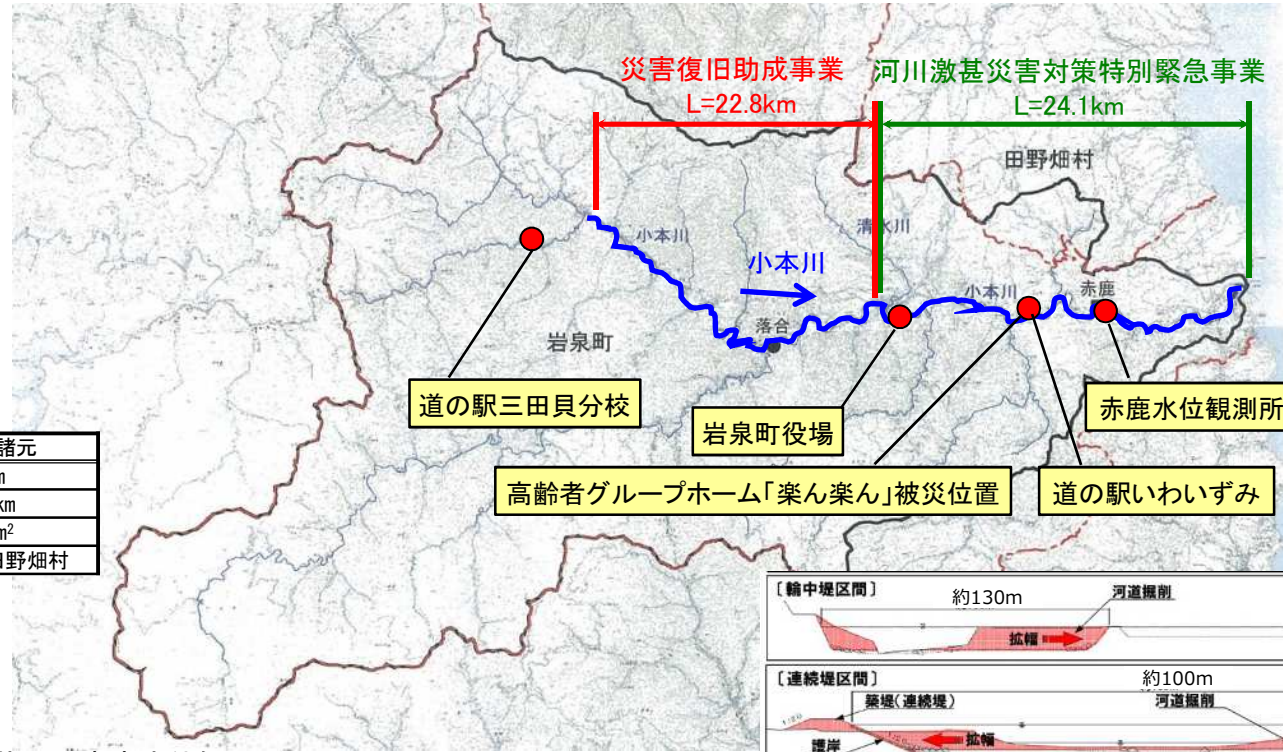
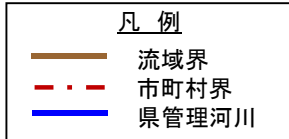
破線 事業中、取り組み中  
実線 完了後の維持管理、フォローアップ等

区分	対策内容	実施主体	工程	
			短期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐための対策	河川改修（河道掘削、堤防・樋門整備、流木捕捉工等）	県		
	砂防堰堤整備	県		
	治山施設等整備、森林整備	国・県・町・森林整備センター		
被害対象を減少させるための対策	輪中堤整備	県		
	宅地嵩上げ	県		
	災害危険区域の指定	町		
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	要配慮者利用施設の避難確保計画策定、避難訓練の実施	県・町・民間		
	防災士等地域リーダーの育成	町・民間		
	道路嵩上げによる災害時の通行確保	県		
	洪水・土砂災害ハザードマップ	県・町		
	水位周知河川、ホットライン等			
	地元連携、防災意識の共有	県・町・民間		
	防災気象情報の利活用に関する普及・啓発活動	気象台		
	適時的確な防災気象情報の発表	気象台		
	気象予測の高度化（次期気象衛星の整備、数値予報モデルの改良等）	気象台		

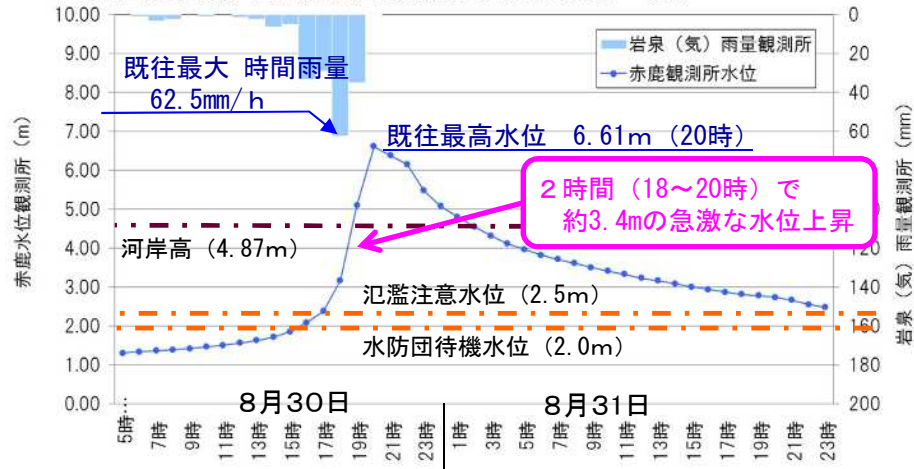




項目	小本川諸元
幹川流路延長	65km
県管理延長	48.7km
流域面積	731km <sup>2</sup>
流域市町村	岩泉町、田野畑村



■ 水位の状況 (赤鹿水位観測所 : H28. 8. 30~31)





小本川河川改修事業進捗率 (R6.6末時点)

	整備延長	進捗率
下流区間 (激特事業) (清水川含む)	26.1km	85.7%
上流区間 (助成事業)	22.8km	98.0%
全 体	48.9km	91.5%

R3.9末時点40.1%  
に対し51.4%の進捗

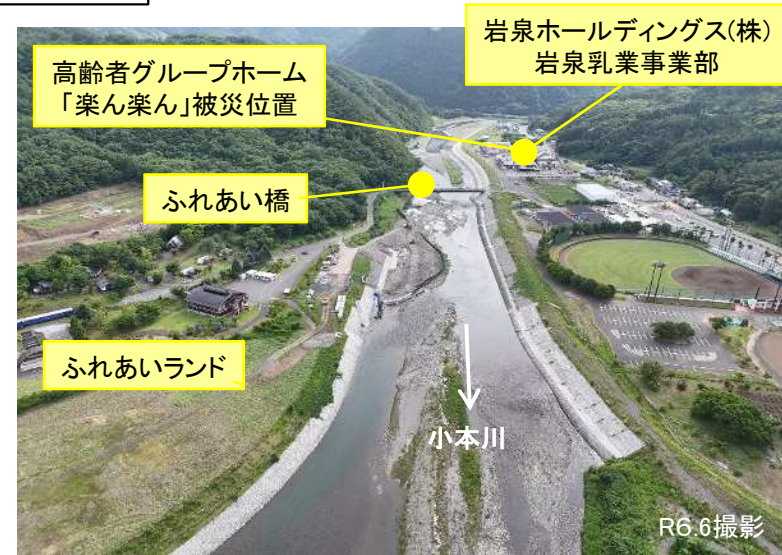


◆工事内容

河道掘削による流水断面の確保  
増水対策としての築堤及び護岸

下流側より

■事業進捗状況(乙茂地区)



上流側より

■事業進捗状況(乙茂地区)

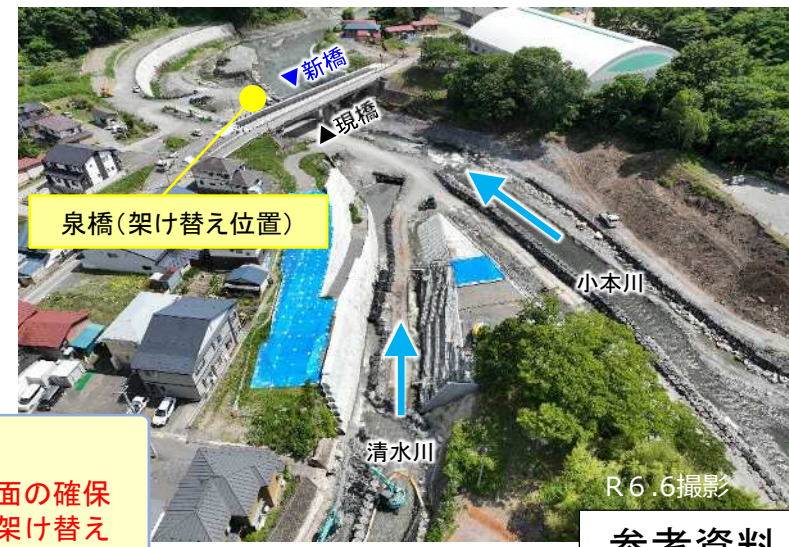




■事業進捗状況(宮本地区)



■事業進捗状況(市街地地区)



◆工事内容

河道掘削による流水断面の確保  
築堤及び護岸、町道橋架け替え



■事業進捗状況(流木捕捉工R4完成)

流木捕捉工とは・・・ 河川の増水時に流下する流木を捕捉し、下流での流木が原因の被害を軽減します。通常時は本川側を水が流れ、増水時には捕捉池側に流木を取り込んで捕捉します。



■事業進捗状況(褒綿地区)



◆工事内容  
河道掘削による流水断面の確保  
築堤及び護岸、町道橋架け替え



■事業進捗状況(門地区)



小川小学校

■事業進捗状況(門地区)

■H28台風第10号被災当時の状況  
(門地区)



名目入橋

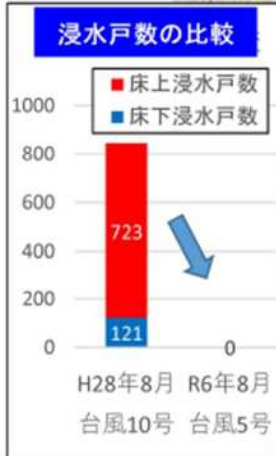
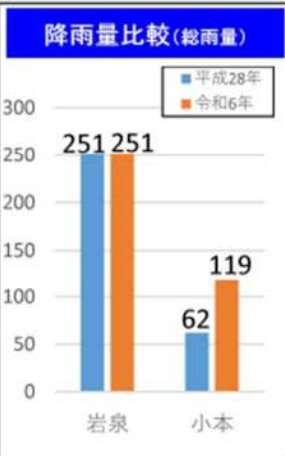
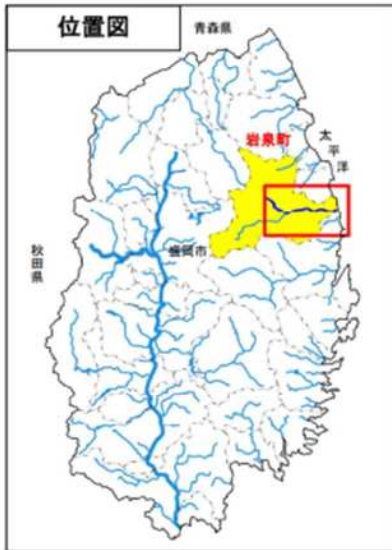
◆工事内容

河道掘削による流水断面の確保  
増水対策として築堤及び護岸

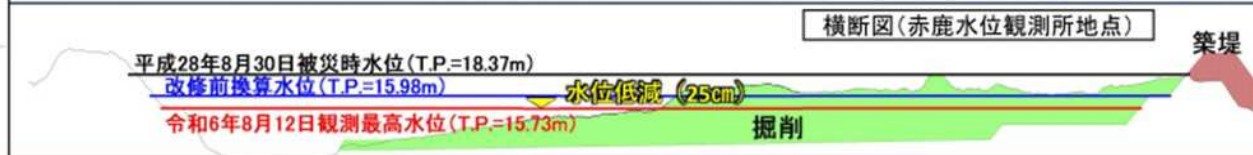


## 令和6年台風第5号の大雨における治水対策の効果(岩手県小本川水系小本川)

- 岩手県岩泉町の小本川では、平成28年8月の台風10号で広く越水・溢水が発生し、床上723戸、床下121戸の家屋等が浸水。
- この出水を踏まえ、河川激甚災害対策特別緊急事業等（5か年加速化予算を含む）を活用し、緊急的かつ集中的に河道掘削や築堤等の治水対策を推進。
- 今次出水（令和6年8月11日～13日）は平成28年の降雨と同規模の総雨量であったが、治水対策の進捗により河川氾濫による家屋等の浸水被害を解消。



参考資料 P6



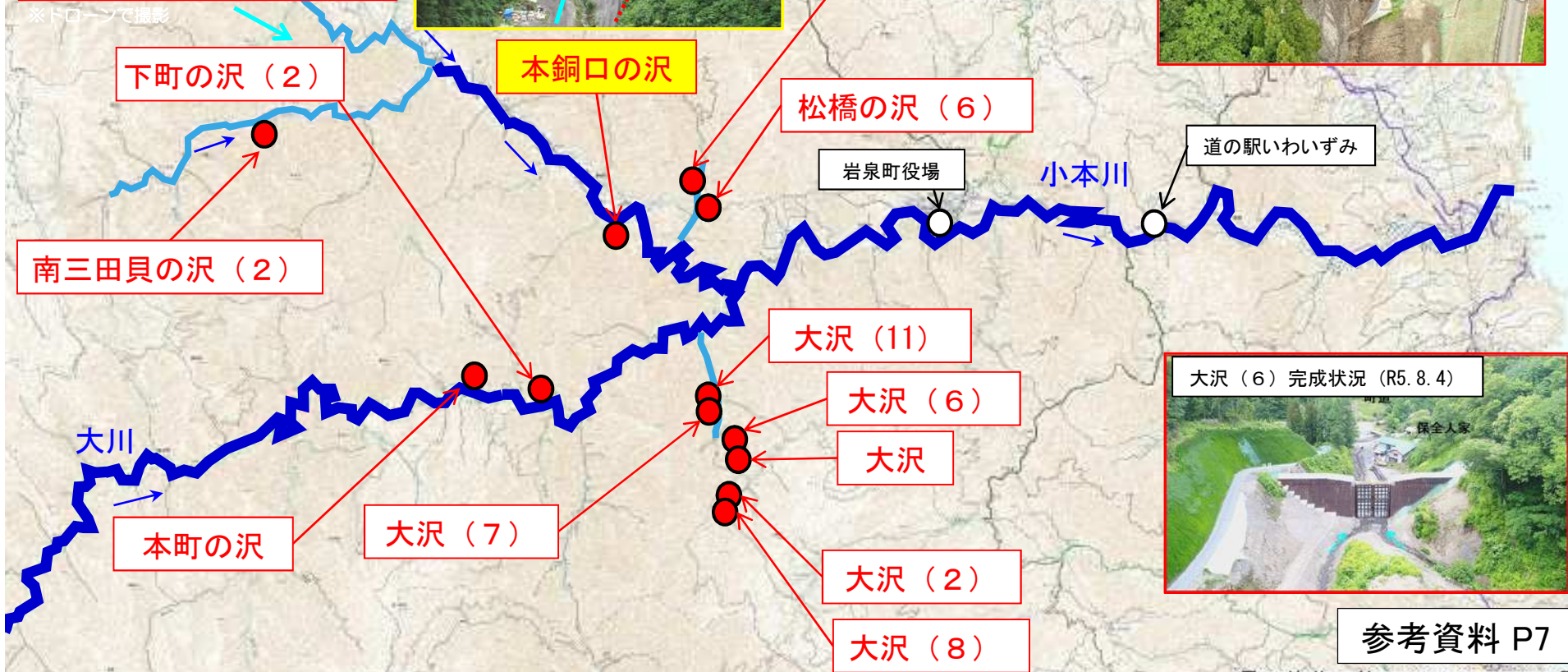


小本川水系 12か所で砂防堰堤を整備

うち 11か所完成済み(R6.8月時点)

本銅口の沢 : 令和6年度完成予定

※H28台風第10号関連工事





災害発生日：令和6年8月11日（推定）  
降雨状況：連続雨量 251mm（8月10日19時～13日1時）  
時間最大雨量 16mm（8月11日17時～20時）  
※岩泉雨量観測所（盛岡地方気象台）  
しもへいぐん いわいずみちょう  
発生箇所：岩手県下閉伊郡岩泉町  
崩壊状況：土砂・流木捕捉量 約 1,500m<sup>3</sup>（推定値）  
状況：令和6年度台風第5号の豪雨により流木を伴う土石流が発生したが、透過型砂防堰堤が整備されており、土砂・流木を捕捉。  
下流への被害を未然に防止し効果を発揮した。



土石流発生前(R4年11月撮影)



堰堤の諸元

堤長 L=14.5m  
堤高 L=66.5m  
R4年8月完成

土石流発生後(R6年8月19日撮影)



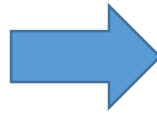


森林の有する土砂流出防止、水源かん養機能等を高度に発揮させるため、森林整備や治山事業を推進します。

取組内容

○森林整備(イメージ)

間伐等の森林整備により下層植生を繁茂させ、降雨に伴う土砂流出を抑制



○治山対策(イメージ)

治山ダム・山腹工の設置による土砂の流出を抑制



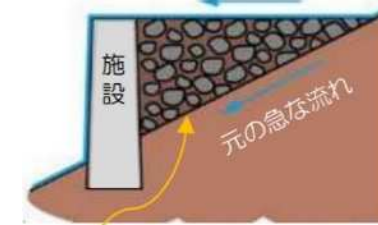
下流側から上流



←治山ダム ↑山腹工

治山施設の効果

ゆるやかになった流れ



土砂が堆積し安定化

溪岸・溪床の浸食防止や山脚の固定等を図り、土砂の流出を抑制します。

林野庁「治山のしおり」より抜粋



久慈・閉伊川森林計画区内の国有林は、三陸北部森林管理署が管理経営を行っており、森林の有する土砂流出防止や水源涵養機能等の適切な発揮に向けて各種事業を行っています。

位置図



【森林整備: 植栽地の下刈】



【森林整備: 列状間伐】



【治山ダム】



【山腹工】

事業区分	令和5年度事業施工実績	
治山	溪間工	一箇所
森林整備	間伐	198 ha
	保育(下刈)	34 ha
	(除伐)	12 ha
	林道(開設)	- m
	(改良)	59 m

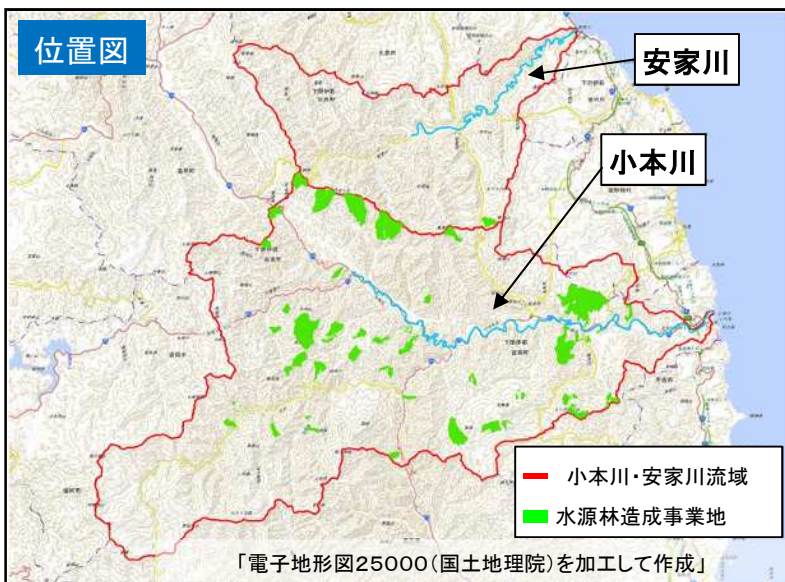
【溪畔プロジェクト林】



溪畔林は、源流部から中・下流域を経て海岸に至るなど連続的なネットワークを形成し、流域全体の生物多様性保全のために貢献している。モデル的な河川周辺を「溪畔保全プロジェクト林」に設定し、人工林を溪畔林へ誘導するために、積極的な整備・保全に取り組んでいます。



小本川流域内の水源林造成事業地において除間伐等の適切な森林整備を実施することにより、土砂流出防止や水源涵養機能等森林の有する公益的機能の維持増進を図ります。



### 具体的な取組み内容

- ・水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- ・小本川流域における水源林造成事業地は、62箇所(1町、森林面積 約3,500 ha)であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。

### 森林整備実施イメージ



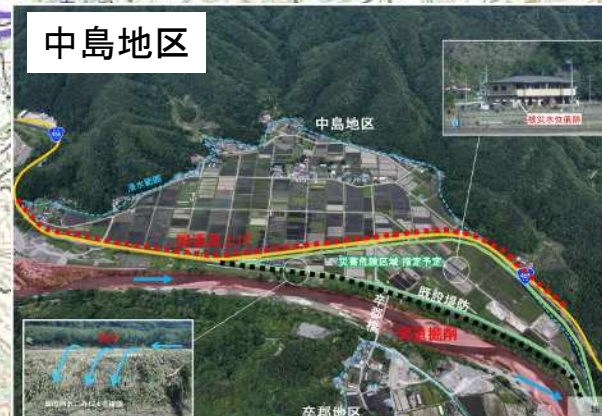
間伐実施前



間伐実施後



- 輪中堤:実施済
- 宅地嵩上げ:実施済
  - ・三田市地区1戸
  - ・斐野地区4戸
- 災害危険区域:
  - 三田市・斐野地区
  - H30.12.7指定



参考資料 P12



## 確実な避難確保計画の策定と更新、 避難訓練の実施による地域全体で速やかな避難行動

高齢者福祉施設、こども園、**児童福祉施設**、学校施設及び診療所等の要配慮者利用施設の担当者との連携会議を開催し、避難確保計画の更新を進め、避難確保訓練事務要領を定めて定例の訓練実施を促進しています。

また、高齢者福祉施設では、周辺企業や自治会が避難行動を支援する協定を締結し、共同での避難訓練を実施するなど、地域全体で安全に速やかな避難行動の確保に努めています。



高齢者福祉施設と地域自主防組織との避難確保訓練

## 岩泉町総合防災訓練、岩泉町津波防災訓練

岩泉町では、令和5年11月5日に令和5年度の町総合防災訓練を実施しました。令和5年度は、**小本地区を主会場に、避難所開設訓練、地区支部拠点設置訓練、情報伝達訓練、消防団活動訓練、災害対策本部訓練、防災活動等偵察マルチコプター運用訓練**などを実施しました。

また、令和6年3月10日には、小本地区において津波**避難訓練**を実施しました。岩手県から公表されたシミュレーションに基づく、最大津波の発生を想定し、避難行動や中里公民館に小本地区支部の**拠点を設置する訓練**等を実施しました。



災害時における避難等に関する協定式



ドローン  
活用訓練  
現地情報  
状況共有



地域リーダーの育成と地域と職場からの防災意識の高揚  
組織力で防災に向かう  
LINEを活用した双方向の情報連携

地域・職場等での防災リーダーを担っていただくために、防災士養成に力を入れ、平成30年から令和2年まで町単独で防災士養成講座を開催し、防災士177名を育成しました。

平成31年には、防災士のネットワークの構築及び防災・減災にかかる知識の向上を図り、町の地域防災力を高めることを目的に資格取得者を会員とする「岩泉町防災士連絡協議会」を組織しています。会員数は、204名(令和5年3月末)で、有事には地区自主防災協議会との協働や各個人が地域や職場で活動することとしています。

また、地域で行われる防災研修や防災訓練に派遣して地域に根差した活動を進め、令和5年度は、岩泉地域振興協議会主催による岩泉スポーツ大会(防災クイズコーナー)や岩泉高等学校復興教育及び岩泉町学びの出前講座に派遣し、幅広い層への防災意識の高揚と教職員も含めた顔の見える関係づくりの構築に努めています。

また、LINEを活用し、町と防災士との双方向の情報連携を図り、町の地域情報の収集力の強化と定例的な防災士への防災情報の提供を行っています。

※会員数＝県内防災士数3,846名(R6.8月末現在)のうち5.3%を占める。



防災士派遣による  
おもとこども園避難訓練



防災士によるさらなる  
地域リーダー育成研修

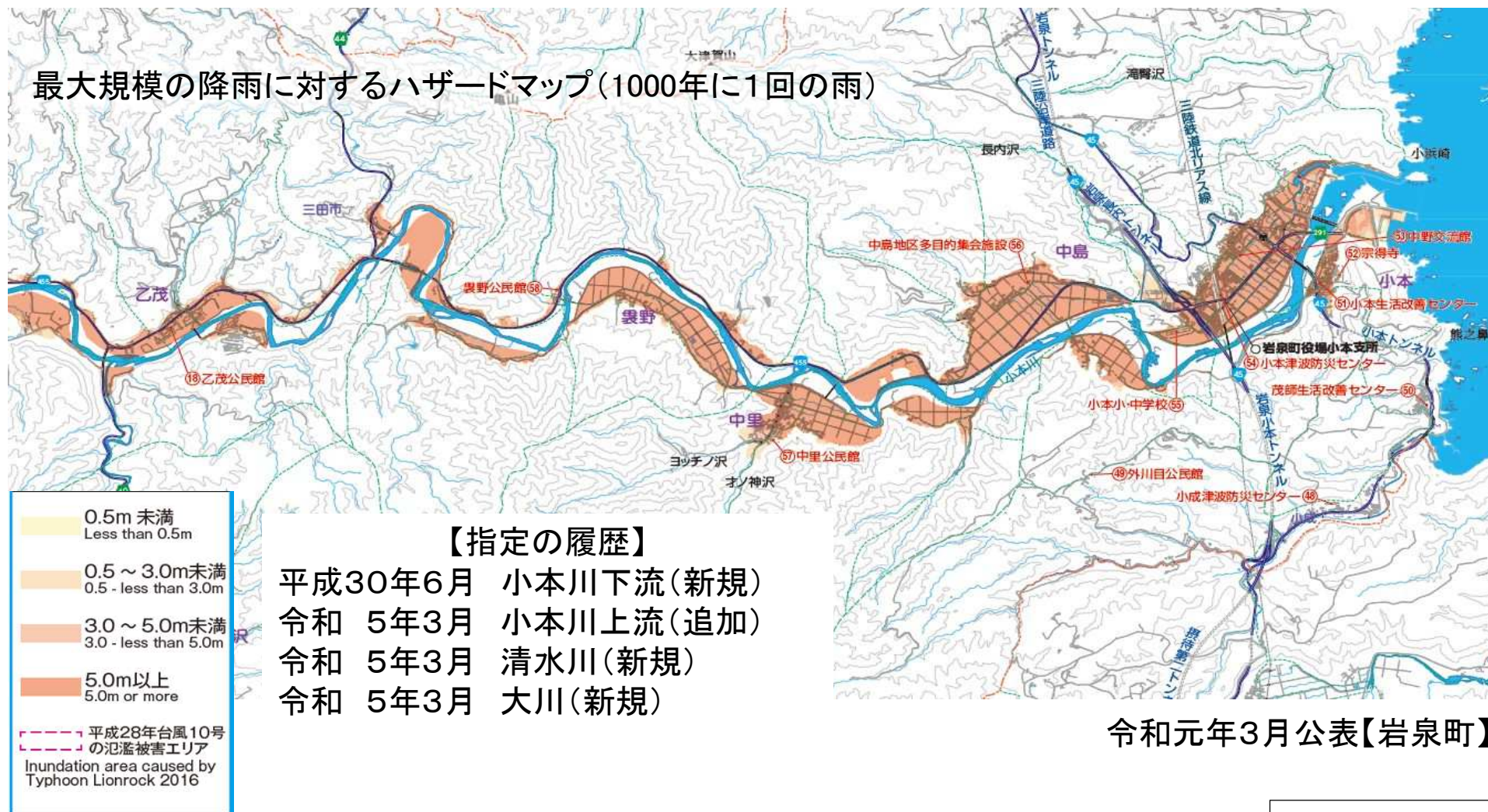


LINEを活用した情報共有  
訓練



- ・ 計画想定規模と併せて想定最大規模の浸水区域を公表  
【令和5年3月追加公表】

最大規模の降雨に対するハザードマップ(1000年に1回の雨)





二級水系  
流域治水プロジェクト

# 小本川流域治水プロジェクト

## 【参考資料⑩】

### [洪水浸水想定区域の指定]

〔現状〕 (R6. 3月末時点)  
指定数 128河川 (想定最大規模)

#### 〔基本方針〕

岩手県管理のうち住宅等の防御対象のある河川について、令和7年度末までに全て指定

#### 指定状況 (R6. 3月末時点)

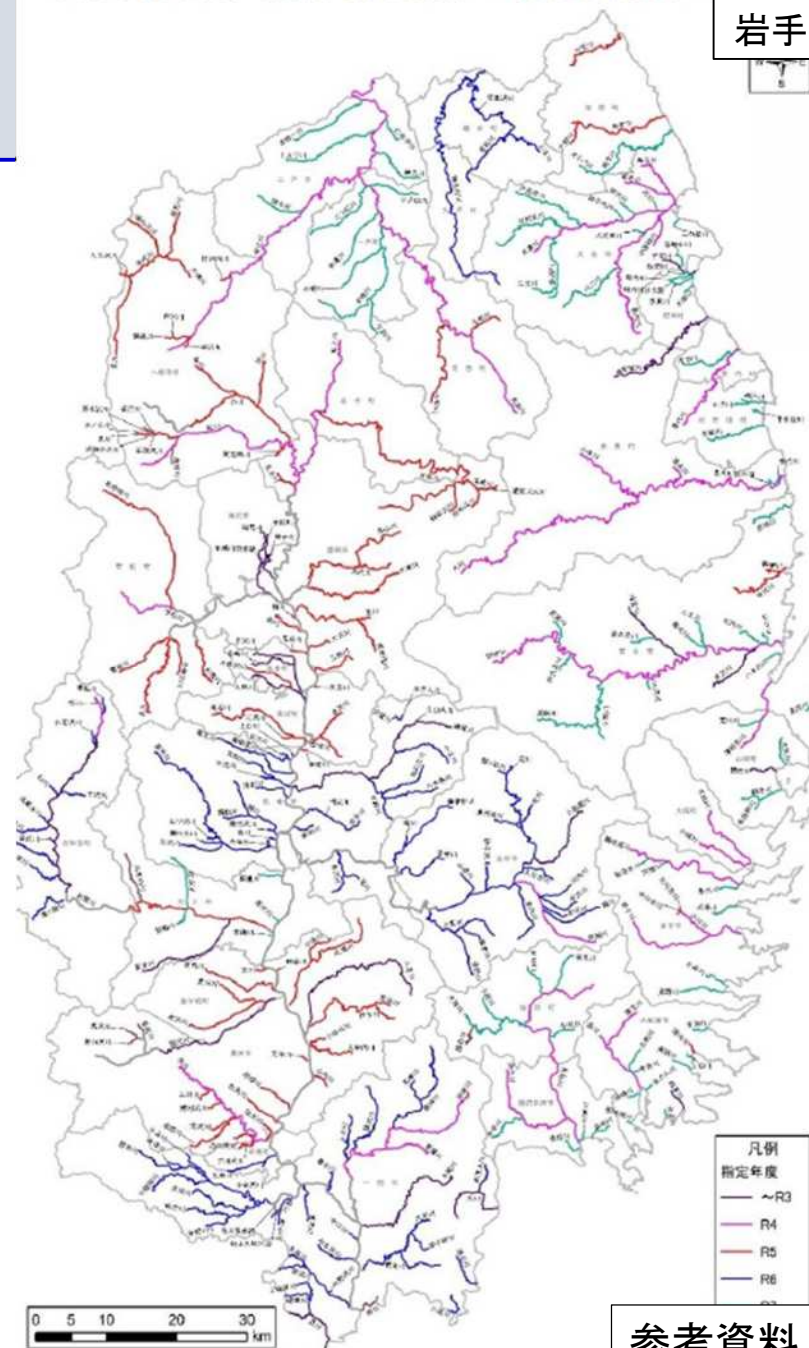
R6. 3月末までに指定済	128河川	<u>小本川 : H30. 6指定、R5. 3追加</u> <u>大 川 : R5. 3指定</u> <u>清水川 : R5. 3指定</u>
R6~R7指定予定	171河川 (うち新規166河川 区間見直し5河川)	R6 89河川 (来内川 (遠野市) ほか) R7 82河川 ( <u>長内川 (岩泉町)</u> ほか)
合計	294河川	
指定不要	19河川	
県管理河川計	313河川	

#### 〔今後の予定〕

- ・ 大規模氾濫減災協議会で策定したR4年度からR7年度までの指定計画に基づき、計画的に指定を進めます。
- ・ 洪水浸水想定区域の作成にあたっては、岩手県独自の解析手法 (岩手県モデル) も活用し、精度を確保しながら作業効率化を図ります。

洪水浸水想定 (想定最大規模) の指定状況及び予定

岩手県



参考資料 P16



〔現状〕 (R6. 3月末時点)

指定数 46河川

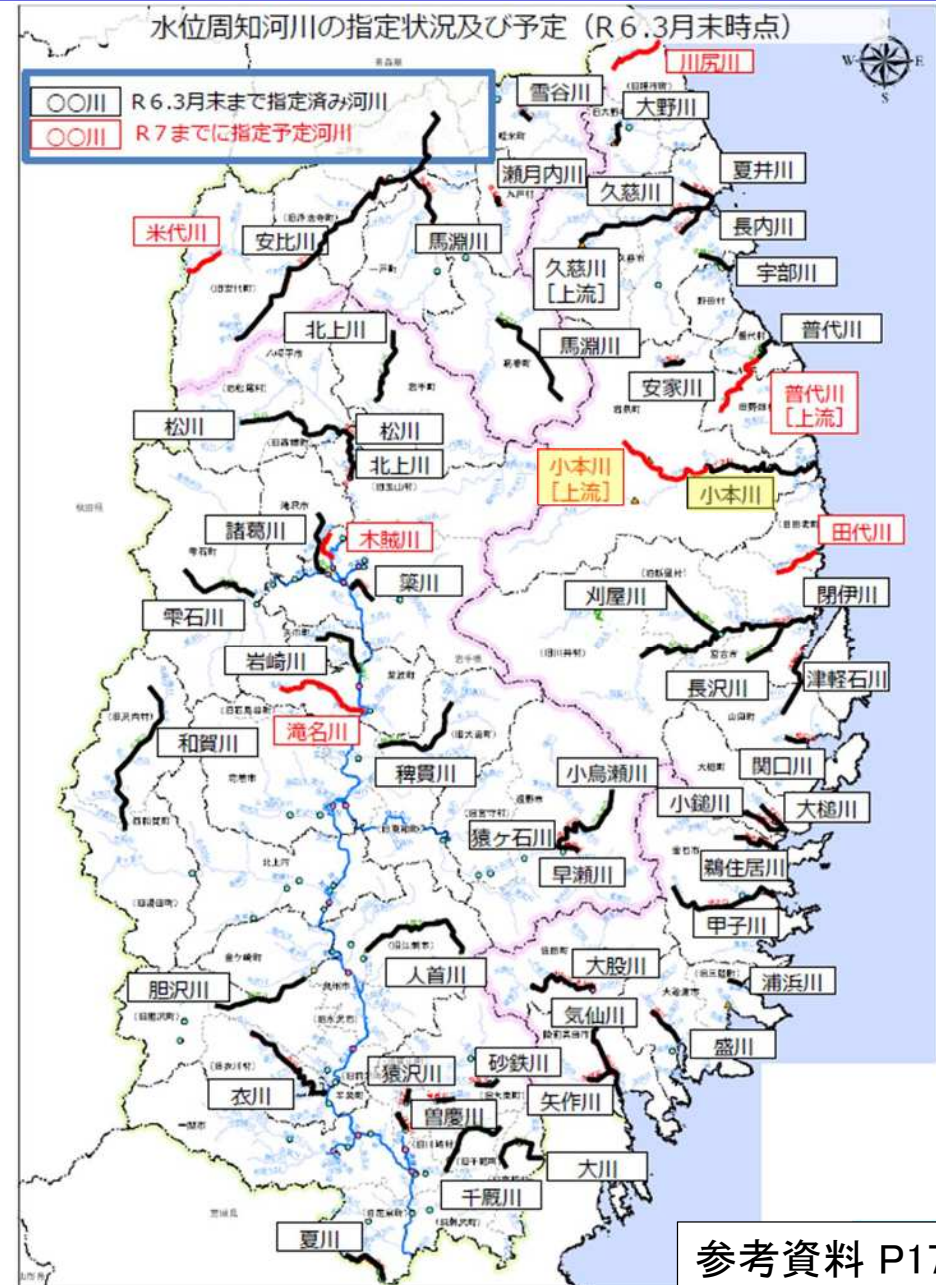
〔基本方針〕

- ① R4～R7の4カ年で11河川の指定
- ② 県内の防災拠点や資産集中区域をカバーするため、未指定市町村（旧市町村単位）の河川を指定
- ③ 平成28年台風第10号で甚大な浸水被害を受けた河川
- ④ 近年の洪水実績のある河川

指定状況 (R6. 3月末時点)

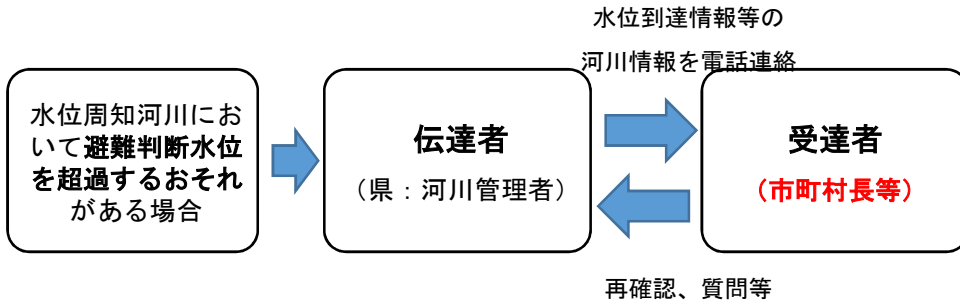
R6. 3月末までに指定済	46河川	小本川：平成29年5月指定済
R6～R7指定予定	7河川 (うち新規5河川、 区間追加2河川)	R6指定 小本川 [上流] (岩泉町) (※1) 普代川 [上流] (田野畑村) (※1) 滝名川 (紫波町) 木賊川 (盛岡市、滝沢市) R7指定 田代川 (宮古市) 川尻川 (洋野町) 米代川 (八幡平市)
合計	51河川	

※1:R4.3月末までに河川としては指定済で、4カ年の計画では区間追加のみとなる河川





ホットラインの概要



平成29年6月1日から、全ての水位周知河川で運用開始

〔実施実績〕 (R6.3月末時点)

	延べ市町村	回数	(うち小本川)
H29	延べ37市町村	48回	(3回)
H30	延べ20市町村	28回	(1回)
R1	延べ25市町村	39回	(1回)
R2	延べ21市町村	26回	(2回)
R3	延べ5市町村	7回	(0回)
R4	延べ20市町村	29回	(3回)
R5	延べ12市町村	12回	(1回)

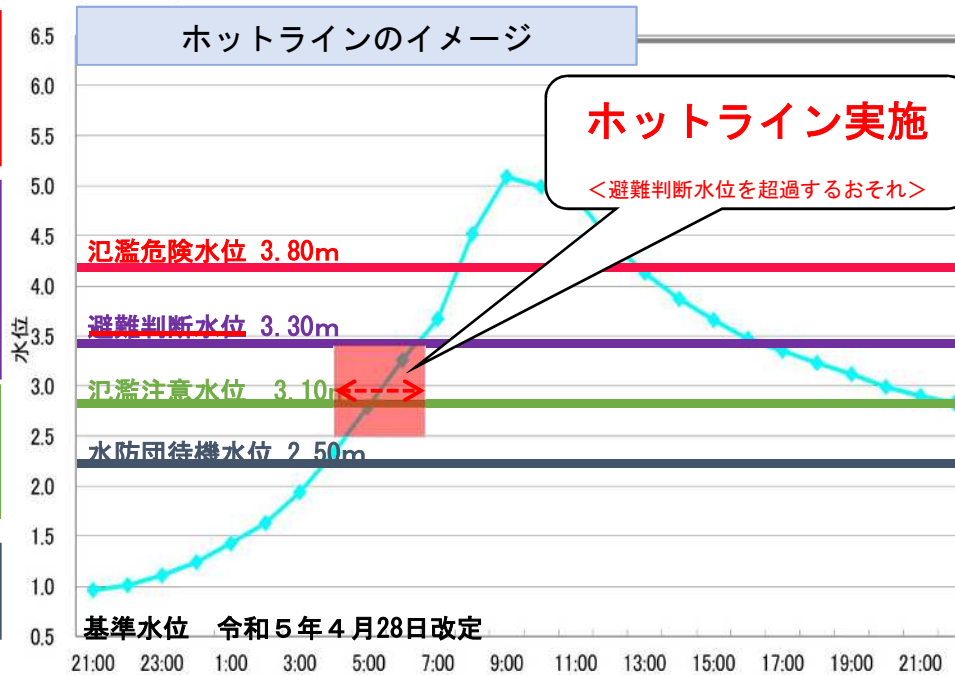
累計 延べ140市町村 189回

**氾濫危険水位**  
【警戒レベル4】  
・市町村長の  
避難指示の発令の目安

**避難判断水位**  
【警戒レベル3】  
・市町村長の  
高齢者等避難の発令  
の目安

**氾濫注意水位**  
【警戒レベル2】  
・水防団の出動の目安

**水防団待機水位**  
・水防団の待機の目安



ホットラインの体制構築

○伝達者 (県)

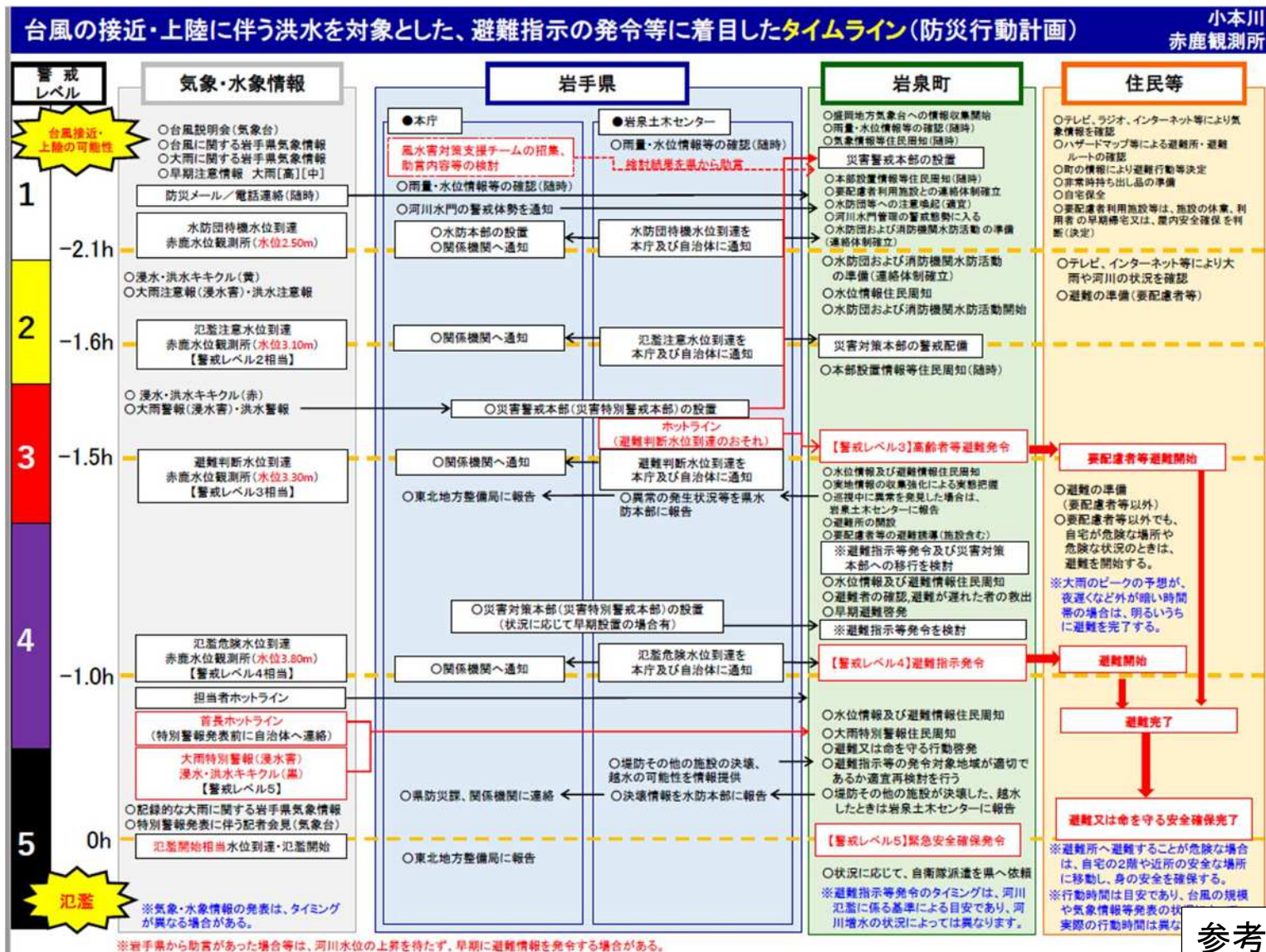
	役職
第1順位	岩泉土木センター 副所長
第2順位	岩泉土木センター 河川港湾課長
第3順位	岩泉土木センター 管理課長

○受達者 (市町村)

	役職
第1順位	岩泉町長
第2順位	岩泉町危機管理課長
第3順位	岩泉町危機管理課総括室長



- ・ 水位周知河川のある全市町村で策定、運用中 (30市町村、R5.3月末時点)
- ・ 随時、見直しを行う。





二級水系  
流域治水プロジェクト

小本川水系流域治水プロジェクト  
[ 河川情報の充実 ]

【参考資料⑭】

岩手県

危機管理型水位計

小本川水系には、  
通常型4箇所、危機管理型5箇所設置

岩手県：令和元年5月から運用開始

通常型水位計に加え、危機管理型水位計の設置により、**水位観測体制が大幅に強化され、住民の迅速な避難行動につながる**ことが期待される。

【設置箇所数】 (令和6年5月末時点)

	河川数	箇所数
通常型(※1)	77 河川	145 箇所
危機管理型	262 河川	327 箇所
合計(※2)	339 河川	472 箇所

※1 岩手県河川情報システムで公開している数で、他管理者設置分を含む。  
※2 河川数については、重複する河川があるため、合計が一致しない。



簡易型河川監視カメラ

小本川水系には、  
従来型1箇所、簡易型4箇所設置

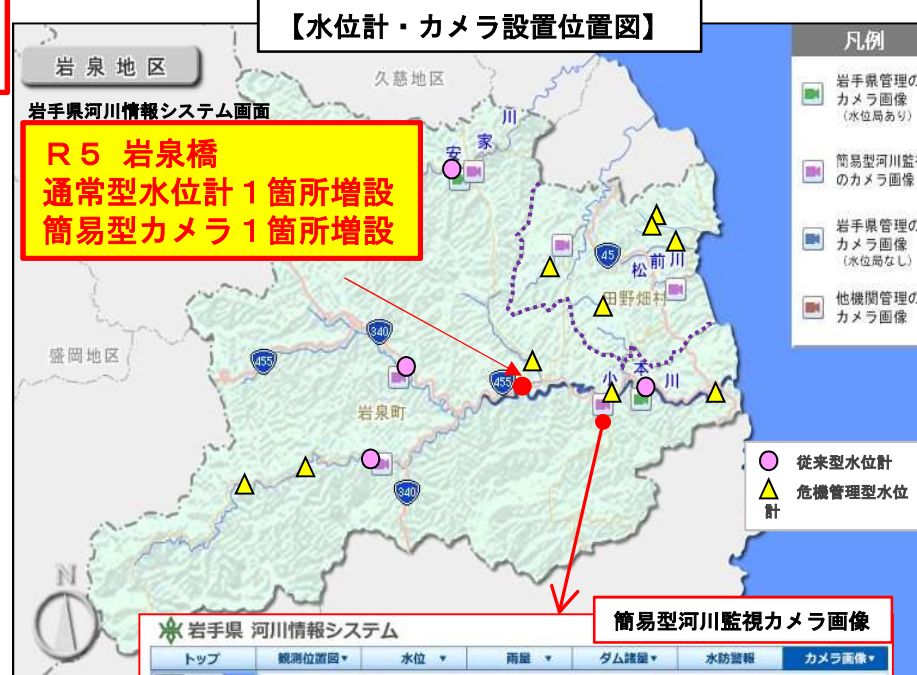
岩手県：令和2年6月から運用開始

簡易型監視カメラの設置により、カメラ設置箇所が大幅に増加し、**リアルティーのある洪水状況を提供**ことができ、**住民の迅速な避難行動**につながることを期待される。

【設置箇所数】 (令和6年5月末時点)

	河川数	箇所数
従来型	30 河川	31 箇所
簡易型	72 河川	124 箇所
合計(※)	102 河川	155 箇所

※河川数については、重複する河川があるため、合計が一致しない。



参考資料 P20



岩泉町 WEB雨量観測システム

岩手県：令和元年5月から運用開始

岩泉町が独自に設置している雨量観測所12箇所の雨量データを岩手県と情報共有。1時間雨量を24時間分、一覧表形式で表示。

【観測箇所】

地域整備課、小川支所、国境、権現、大川支所、外椀、櫃取、小本支所、安家支所、坂本、有芸支所、栃の木

岩泉町WEB雨量観測システム画面

年月日	時間	地域整備課			小川支所			国境		
		雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm	雨量観測所 (24h) mm
2021/11/09	16:00	8	36	36	2	9	9	1	9	9
2021/11/09	17:00	5	41	41	4	13	13	5	14	14
2021/11/09	18:00	23	56	56	7	20	20	6	20	20
2021/11/09	19:00	22	78	78	9	29	29	7	27	27
2021/11/09	20:00	11	87	87	5	34	34	4	31	31
2021/11/09	21:00	2	89	89	2	36	36	1	32	32
2021/11/09	22:00	1	90	90	0	36	36	0	32	32
2021/11/09	23:00	1	91	91	0	36	36	0	32	32
2021/11/10	00:00	0	91	91	0	36	36	1	33	33
2021/11/10	01:00	1	1	92	1	1	37	0	0	33

岩泉町災害情報共有システム (IDRIS)

国立研究開発法人土木研究所、水災害・リスクマネジメント国際センターとで共同開発中

平成31年2月18日、町と土木研究所及びICHARMは洪水リスクの把握による地域防災力の向上などを目的として「中山間地における水関連災害リスクに係る調査研究・技術開発に関する連携・協力協定」を締結し、災害情報システムの開発研究を行っています。

県や町の雨量データをはじめ、各種防災関係データを取り込んで一元的に確認できるようなシステムを目指しています。

※令和3年6月に台風第10号災害に関する住民意識アンケート調査概要リーフレットを町内全戸配布しました。



ピーちゃんネット

岩泉町内全戸にテレビ電話型のIP端末を配布。

災害等の緊急時にはサイレンが鳴り、災害情報や避難指示が配信されます。



スマートフォンを活用した  
情報発信・情報収集

岩泉町防災士連絡協議会の会員への情報発信や災害時の情報収集のため、LINE(ライン)アプリを活用。【再掲】

町とヤフー(株)で「災害に係る情報発信に関する協定」を令和2年10月9日に締結し、「Yahoo!防災速報」を活用した防災情報(避難所の開設情報や災害への注意喚起情報)を配信。

## 「土砂災害から身を守る」出前講座の取り組み

県では、土砂災害への備え及び対処の方法について、正しい知識を身につけることにより、行政から発信する避難情報を待つことなく、自ら情報を入手して早めの避難行動ができるよう、職員が講師となって、町内の小中学生を対象とした出前講座を継続して実施しています。

- 令和5年度は小川中学校、小本小学校等4校で開催しました。

令和5年6月2日【小川中学校1年生 16名】



避難プランを考えるワークショップ



模型実験により砂防堰堤の効果を学習



砂防堰堤を見学(松橋川堰堤)

- 令和6年度は、これまでに小本小学校等5校で開催したほか、9月13日に小川中学校で開催を予定しています。

令和6年6月21日【小本小学校5年生 8名】



土砂災害の基礎知識を学習



模型実験により砂防堰堤の効果を学習



砂防堰堤を見学(長内沢堰堤)



## 岩泉町や小中学校による防災教育の取り組み

岩泉町では、災害から身を守るための行動を学ぶことを目的として、町内の小中学校を対象とした防災に関する出前授業の取り組みを実施しており、令和5年度は、有芸小学校や小川小学校と小川中学校の合同による出前授業を開催しました。

小川小学校と小川中学校の合同による出前授業では、①家具の転倒防止資材の紹介、②身の回りにある物を使用した救急処置、③避難所で使用する簡易資材（応急室内照明・新聞紙スリッパ）の作製を実施し、防災・減災の知識を広く浸透することができました。



岩泉町佐々木危機管理監による説明

岩泉町ふるさと少年隊では、防災体験学習にも力を入れて取り組んでおり、12月24日のクリスマスイベントに併せて、日用品を使用した応急手当（腕の出血の手当）や避難所で使用する応急資材の作製（新聞紙で作る簡単なスリッパ）など、有事の際に活用できる知識を身に付けました。



応急手当の様子



応急資材の作製

## 岩泉町 防災士連絡協議会研修会

令和5年度の岩泉町防災士連絡協議会の研修会が、令和5年5月28日に岩泉町民会館大ホールにおいて開催され、岩手県地震・津波減災対策検討会議アドバイザーの岩手大学名誉教授 齋藤 徳美 先生から「最悪想定最大の津波からの津波避難」について、ご講演をいただき、参加した防災士の防災意識を高めました。

## 岩泉町 自主防災協議会連携会議

岩泉町自主防災協議会連携会議の定例会議を4月、10月に開催しました。第2回目の会議では、町総合防災訓練の振り返りや次年度に向けた防災・減災事業の提案をいただくなど、防災リーダーの育成に努めました。



岩泉町防災士連絡協議会研修会



自主防連携会議 流域治水の事業展開



自主防災組織等のリーダー育成研修